

攻めるオーナー経営者のための

NIKKEI
TOP

日経トップリーダー
LEADER

2014年12月1日発行(毎月14発行) 第363号 1984年11月22日第1号創刊

12
2014

30th
ANNIVERSARY
TOP LEADER

特集

中小製造業の未来

超“SNS”経営で 生き残れ



特集

明日から役立つ

人手不足解消の処方箋

論点

2015年 増収より利益確保で倒産回避

Sharp

誰にもできない仕事をすれば 絶対にも成長できる

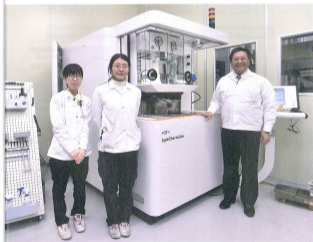
日本の市場は縮小しているとい
つても、二一六技術は先進国に
比肩する。研究開発や高度な加工
技術など、高代価を払ってでも
手に入れたい技術や商品があれば
成長できる。ここでは、そんな
特殊技術を育て、成長を続ける金
社を紹介する。

埼玉県所沢市にある金剛加工工
社の井口二世は、2001年の創
業以来成長を続け、14年3月期
には売上高6億9000万円を上し、
アルミをはじめとした金属の塑性
加工などを扱う。
成長は原動力となっているのは、
匠師の技術力だ。そこそこの優秀
な技術者を採用して育てているの
かと思いきや、そうではない。技
師の半数が文大工学部の卒業生だ。
「製造業では、「同僚で安い」か

「高品質で高い」のどちらかで勝負
するのが一般的だが、どちらの最
終的には競争に巻き込まれてしま
う。井口二世社長は切り替えて、
そんな井口二世社長の解は「既存のもの
とは全く違う作り方で、匠師的
な成果につながる」というものだ。
そのため、同社は採用から社
内教育まで、奇抜な発想を生むた
めの人材づくりに重点化している
という。

技術職は文系だ！

文系生への採用をその第一歩だ。
「まずは理系の常識をそとで常識
的な考えしかできなくなる」と判
断し、製造現場や技術について何
も知らない学生を招きつける。
その後、理系の再教育を施す
わけではなく、入社後は簡単に説
明書だけを渡して製造現場に離れ



「設備は日本に1台しかないようなものを入れる。普通のものづくりなら不備な設備だから当然高い」と井口社長は笑う。採用から設備投資まで、すべてが自社にしかない技術を生むために動く

徹底して奇抜なアイデアだけを追い求める

顧客から、「開発費なし」「期限なし」で研究課題をもらう

- 基礎教養の勉強会を毎週開催
- 課題を一切課さない海外視察に出す
- 競合が持たない設備の購入、改造
- 設備の修理を内製化

業界常識を無視した方法で解決、言い値で買ってもらう

例えば…

アルミ削削で作っていた
部品を曲げ加工で作り
従来品の2割で販売

精度10倍の部品を
提供して顧客の組み付け
後の調整作業を削減。
部品単価は数倍に

させる。そして、実現不可症と思
われる課題を与え、数週間かけて
作るものだが、「課題ができてく
てもいい。課題を壊してもいいし、そ
の結果数週間が止まるまで構
わない」といふ。機械が壊れたら
、「メーカーに問い合わせるのはい
い。絶対に自分で直せと、機

械いじりをするをしたことがない新
入社員に導く。この中で、自分で
原因を突き止め、解決法を考
え、部品を売ったりする。この特
異な人材が育ちつつある。
ほかに、特定分野の技術や知
識に縛られない仕組むを採用する。
それが、毎週1回、午前中を丸々

事務職も全機械を操る

さらに、海外研修なども充実さ
せている。1年では海外研修
に4人を派遣した。全員が23人
なので、2割弱という比率だ。1
人当たり、60万~80万円が
かけて米シリコンバレーやドイツ、
ベトナムなどに送り込んだ。しか
し、「課題をテーマは一切与えな
い。好き好きで面白いのを
感じてほしい」と言われた。展示
会や取引先回りなども一切なしだ

さらに、「216」なのだが、毎月の
昇給。その条件は、新しい技術の
習得があった機械を動かして、質
を取ったというだけだが、昇給
するが全く明示してある。受けを
加える社員も1年以内の全ての
加賃を動かせるという。
こうして育った人材は、井口社

長が与える仕事は風変わりだ。井
口二世は基本的に、「研究開発を引
き受ける際に開発費をもらわない。
その代わりに、期限を設けない。
「取引先は、「この製品は両建て
も2割削減を希望している。それ
という見込みを持つている。それ
を超えるための開発設備だから
向こうも生産計画に盛り込まな
いという。つまり、成功したら
買ってもらおうという契約だ」
過去には、それまで切削加工で
作っていたアルミ部品を曲げ加工
で作れるようにしたこと。歩留ま
りなどが改善、顧客の仕入れ機
を1/3に削減した。多くのお客様
の仕掛けには、井口二世は毎注
のこと」と話し書きがある。それは
相見積もりがない仕組む受注という
こと。これが何よりの強みで、
と笑顔を浮かべた。

地元率9割で世界的活躍

福井県福井市の松浦機械製作所
は売上高1億1300万円、工場機械メ
1カ所としては中堅規模ながら、
新技術に積極的に取り組む会社と
して知られる。このころ製造業の未
来を変える可能性がある技術とし